

3月2日(月)

## 命(live)と愛(love)

聖書朗読 創世記 43:15~34

何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。 ヤコブ 4:1

私たちは、相手に謝るよりも自分の正しさを理解してもらいたいと思うものではないでしょうか。けれども、私たちの本当の思い、目的、希望、願いというものは、なかなか相手に伝わらず、もっとも親しい関係でなければ、明確に理解してはもらえないのではないのでしょうか。あなたのことを、あなたの家族以上に知る人がいるのでしょうか。そして、神様ほど、あなたの心の奥深くを探ることのできるお方がいるのでしょうか。主にある家族ほど、あなたの能力を理解し、あなたを許してくれる人はいないのではないのでしょうか。

私たちの命を、神様の愛によって形作っていただくことは、常に大切なことです。憎しみは死をもたらしますが、愛は命をもたらします。私たちが神様を信ずる人々の愛から切り離されたなら、私たちは憤りに満ちた独善的な性質に陥ってしまうでしょう。愛、神様の愛は、変化をもたらす力、まさに命の力なのです。

パウロは、こう書き記しています。「愛は・・・人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」(Iコリント 13:5~7)。

讃美歌 第二編 66

祈り 父よ。キリストとキリストに従う人々を、心から熱い思いをもって愛し、その愛の力によって、主に喜んでいただけるようにしてください。どうか、教会を強め、主にある兄弟姉妹に喜びをもたらしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

フレッド・L・カスマー 1957

## 今日の方

2015年3月2日~3月8日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月3日(火)

## 良き舅

聖書朗読 出エジプト 18:1~27

モーセは、しゅうとを迎えに出て行き、身をかがめ、彼に口づけした。彼らは互いに安否を問ひ、天幕に入った。  
出エジプト 18:7

成功を収めた人が最も受け入れ難いことの一つ、それは、それほど成功したとは思われないような目上の人物からの助言に、耳を傾けることではないでしょうか。それが、舅や姑からの助言であれば、なおさらでしょう。

モーセとイテロは、舅・姑と婿・嫁という関係において、互いに示すべき愛と尊敬を表した素晴らしいお手本ではないでしょうか。

まずイテロについてですが、彼が娘婿であるモーセを誇りとしていた様子が伺えます。イテロ自身は、約束の地という恵みにはあずかりませんでしたが、エジプトからモーセらが解放されたその喜びを、共に分かち合いたいと願ったのでした。

モーセについては、彼が神のおきてを取締り、人々の争いを裁いていたそのやり方について、イテロがモーセをたしなめたことについて、モーセは反論しませんでした。

イテロは、モーセの荷が一人では背負いきれないほど重いということをモーセに気づかせようとし、それによって、モーセは、上手く取り仕切ってはいましたが、やはりその荷が重く、それによるリスクがあることを悟らされたのです。

彼らが互いを尊重し、互いの考えに耳を傾けたことにより、イスラエルはより効率良く統率されることとなったのです。

讚美歌 121

祈り 神様。私たちに助言をしてくれる人々に、愛と尊敬の思いをもって耳を傾けることができるように、特に家族からの助言に、耳を傾けることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジム・ラヴァネリ 1979

3月4日(水)

## 神の守り

聖書朗読 民数記14:1~10

主が私たちとともにおられるのだ。

民数記 14:9

「神は見守りたもう」。昔から繰り返しよく歌われる讚美歌ですが、気持ちを新たに、勇気づけられる言葉ではないでしょうか。主の守りが現実のものであるということを思い出し、気持ちが生き生きとしてきます。

ヴィビア・ペルペチュアという人物がいます。181年から203年に生きていたカルタゴのクリスチャン女性ですが、迫害という試練に遭ったにもかかわらず、信仰によってそれに勝利した人物です。エディス・ディーンという作家は、この素晴らしい若き女性について、ローマのキリスト教禁止令にも関わらず、また、信仰を捨てよという年老いた父親の嘆願にも関わらず、宣教をやめないことを選んだ尊い人物として記しています。彼女と5人の友人らは、投獄と死刑に処せられた初めての人たちです。彼女は、讚美を歌いながら闘技場へ向かい、その苦しみを受けることが、価値あるものとなるようにと祈りました。彼女の最後の証は、他者への愛を彼女自身の家族に示すものでした。

テルトゥリアンという作家は、彼女について次の言葉を残しています。「もっとも勇敢で恵みを受けた殉教者。入獄されたのではなく、むしろ出獄したのだ。地下牢は真っ暗だが、あなた自身は光である。地下牢は、あなたを捕らえているが、神はあなたを自由にされた」。

ペルペチュアの信仰と神の守りの約束に対する確信を知り、嬉しく思います。「何が来ようと、いかに恐るべき。神はあなたを守りたもう」。彼女のお話は、このことを確信させてくれます。

讚美歌 398

祈り 主よ。今日試練に遭うとき、あなたの守りを確信して立ち向かうことが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エライン・ペリン 1984

3月5日(木)

## 一意専心の年長者

聖書朗読 ヨシュア 14:6~15

しらがは光栄の冠。それは正義の道に見いだされる。

箴言 16:31

カレブとは、一体いかなる人物だったのでしょうか。85歳という老齢にもかかわらず、巨人を相手に立ち向かおうと意気込んでいました。彼は45年の間、ヘブロン山地を相続することを待ち望み、あの脅威であるアナク人から、彼に約束された土地を得るために、喜び勇んで立ち向かい、決して挫けることはありませんでした。土地の偵察のため、他の10人とともに遣わされた時も、偵察から戻ってきたときの彼のことは、「必ず我々は攻め取ることができる」というものでした。しかしながら、カレブとヨシュアが他の10人を納得させるのは難しく、結局、彼も荒野をさまようこととなったのです。

やがて、イスラエルの民に戦いの時がやってきました。土地のほとんどは勝ち取っていましたが、カレブの相続すべき地はまだ占拠されていました。けれども、カレブは神が約束の通りにして下さることを確信していました。イスラエルの民の中には、まだ十分ではないけれど、もう譲歩してもよいと思う者もいましたが、カレブは決して妥協しませんでした。45年経っても、彼の活力と信仰は衰えていなかったのです。「神の助けがあれば、相手を一掃することができる」という思いをもって。

年老いてもカレブのようであることは、神からの大きな恵みの一つに違いありません。私たちは自分の目標が達成できるかどうか心配になり、出来るだけ早くそれを達成したいと願うものでしょう。けれども、神様の約束が成し遂げられ、その日まで自分を生きながらえさせてくださったのだと知ることは、何と素晴らしいことでしょう。

神はご自身の王国を支配される。

——M・ウェルチ

讃美歌 380

祈り 主よ。あなた様のご臨在によって私たちの命を満たし活力を与え、私たちが、常に、心からあなた様に従っていると告白できるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

メアリー・エステス 1987

3月6日(金)

## 現代のギデオン

聖書朗読 士師記 6:11~16

私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです

ペリピ 4:13

ギデオンは、説得になかなか応じない人物でしたが、私たちも、神様がお与えになる働きに対し、ギデオンのように頑な態度を示すことはないでしょうか。ギデオンは、このように言いました。『ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができましょう。ご存知のように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです。』私たちも同じように、「誰ですか。私ですか。私などあまりに非力で、そのような働きは出来るはずもありません。そんな能力、私にはありません」などと言うことはないでしょうか。けれども、神様は、ギデオンに語られたようにこうおっしゃるでしょう。『わたしがあなたを遣わすのではないか。・・・わたしはあなたといっしょにいる。』

実際、私は自分の弱さを覚える時こそ、物事が最もうまく進みます。パウロはこのように言っています。『私が弱いときにこそ、私は強い・・・』(IIコリント 12:10)。自分が強いと思うときは、本来は限界のある自分の力というものに頼りますが、弱さを覚えるときは、無限の神の力に頼らざるを得なくなるからでしょう。『私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです。』(ペリピ 4:13)

今日も神様は、ギデオンに与えられたような試練を、励ましとともにお与えになるでしょう。『わたしはあなたといっしょにいる。』あなたには出来るのです。

もがいたところで、知恵は得られない

骨折ったところで、得るものはほとんどない

自ら庭の草木に水を遣うことをやめたそのとき

あなたの豊かな雨が降り注がれる

——フォスディック

讃美歌 448

祈り 親愛なる主よ。今日、あなた様が、私になすべき務めをお与えになるとき、そのビジョンを示し、それを成し遂げるあなた様の御力を見せてくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロジャー・ハウリー 1990

3月7日(土)

## 神の友

聖書朗読 I Iサムエル7:18~26

私がいったい何者であり、私の家が何であるからというので、あなたはここまで私を導いてくださったのですか。

IIサムエル 7:18

ダビデのこの問いかけは、非常に謙虚な思いに満ちています。神様の偉大さと聖さを認める時、私たちは、立ち止まって、主への感謝の思いで心が満たされるものです。ダビデは立ち止まって『主の前に座し』たのです。

主の前に座したという者について、あまり読むことがないかもしれませんが、ダビデは自らの人生において、神の見えざる御手の業を認め、それに圧倒されていたのでしょう。ダビデは、神が彼を幕屋から宮殿へと導いてくださり、永遠の御国を建ててくださると約束されたことを覚えていました。神の偉大な御力と御愛によるこうした事実によって、ダビデは圧倒されていたのです。

ダビデは感謝の思いに心から満たされ、神様と語りに行きました。イスラエルの王としてではなく、友として。「良き友のように」という讃美にあるように。

ダビデの献身的な精神は、私たちにも求められているのではないのでしょうか。立ち止まって時間を取って見たなら、その交わりが何と甘く心地よいものかと思わされるでしょう。神様はすべてを支配されると同時に、私たち一人ひとりに心をかけてくださっています。どれほどの熱意を持って、私たちは、最高の友であり王である方の御前にひれ伏し、心からの語らいをすることができるでしょう。

『わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。』(ヨハネ15:15)。

讃美歌 312

祈り どうか主よ、あなた様が近くにおられることに気づかせてください。そして、あなた様がいつもそばにいてくださるという約束を、信ずることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジュウエル・リグニー 1961

3月8日(日)

## 塵旋風

聖書朗読 IIサムエル 13:30~39

心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。 箴言 3:5~6

アブシャロム。復讐心に燃え、悪賢く、政略的、反逆的で、嫉妬深く、虚栄心の強い者。そんな彼ですが、「誰一人として無意味な存在はいないので、彼は常に悪いお手本として取り上げられるという役割を果たしています。」アブシャロムは、大気を掻き回し埃を巻き上げる、つむじ風のような人物でした。みなさんも塵旋風というものを、車で移動する際などに見たことがあるかと思いますが、それは、目に見えていても、その向かう方向が全く予測できないものです。アブシャロムは、突飛な行動をする人物であり、また、中身のある人物であったとは思えないのですが、人からの注目を集める存在でした。

つむじ風は、風の流れが悪くなって現れる現象です。アブシャロムは、多くの優れた性質に恵まれていたにも関わらず、それを無駄にしていました。塵旋風というものは、竜巻やハリケーンと同じ要素から生まれるのですが、無害なものが一変して残虐な性質のものとなるのです。同じように、アブシャロムのちょっとしたゲーム感覚の復讐心は、大きな破壊力をもたらしてしまったのです。天候の気まぐれさ加減と、この心の安定しない人物には、もう一つの共通の特徴があります。それは、どちらも制御できないという点です。試しにつむじ風に向かって手を上げて、「止みなさい」と言ってみたとしても、つむじ風を止めることはできないでしょう。同じように、何者もアブシャロムを止めることはできなかったのです。

つむじ風のような生き方に対する処方箋は何でしょう。それは神の目的、神の示される方向性、価値観を持つことではないのでしょうか。神の方へ向きを変えた人生は、優しいそよ風が吹き、平和で穏やかなものとなり、周囲の人々を良い方向へと導く力強い風をもたらすものとなるでしょう。神に抛り頼むことにより、私たちに祝福が与えられ、そして、私たちを通して周囲の人々にも祝福がもたらされるのです。

讃美歌 291

祈り 親愛なる神様。あなた様のみこころが示されなければ、そして、そのみこころによってのみ与えられる導きがなければ、私たちは進む方向を見失い、自らの存在が無意味なものとなってしまいます。どうか主よ、揺るぎない目的を持たせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ボブ・マイズ 1988